



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス JSQC規格「品質管理教育の指針」発行にあたって
- 2-私の提言 支部活動の活性化のために
- 2-支部の研究会〈関西〉
- 3-第47年度事業計画／行事案内／研究助成募集のお知らせ
- 4-9月入会者紹介／事務局からのお知らせ／第47年度役員体制役割分担

JSQC規格「品質管理教育の指針」発行にあたって

原案作成委員会委員長 中條 武志

品質管理教育に関する推奨事項をまとめたJSQC規格が発行されました。

規格開発のねらい

近年、組織を取り巻く環境は大きく変化しています。このため、組織がその使命を着実に果たし続けるには、変化を的確に捉まえ、自組織の置かれた状況や自組織の強み・弱みに応じた経営目標・戦略を定め、その実現に向けて従来の仕事のやり方を変えていくことが必要です。

しかし、考え方や価値観の異なる多くの人から成る組織では、お互いに連携することが難しく、従来の延長線上からなかなか抜け出せません。このような状況を打開するための一つの方法論がTQMです。

TQMを実践する場合、組織の構成員一人ひとりが基本的な原則を理解し、方針管理、日常管理、小集団改善活動、品質保証などの具体的な活動に取り組む必要があります。これらの活動を適切に行う能力を持った人材をどのように育成すればよいかについては、規範となるものが少なく、各組織がそれぞれの実情を踏まえて独自の階層別分野別教育体系や品質管理教育のしくみを構築しています。そのため、中には、問題解決力などの品質管理に関する必要な能力を持った人材の育成が十分できておらず、結果としてTQM

を適切に実践できていない組織もあります。今回発行されたJSQC-Std 41-001は、このような状況を鑑み、TQMを適切に推進するために必要となる品質管理教育を計画・実施・評価・改善する場合の推奨事項を定めたものです。

開発から発行までの経緯

2016年1月26日の標準委員会において開発提案書が承認され、原案作成が始まりました。計11回の原案作成委員会（2016年3月から2017年3月まで）が開催され、原案が完成しました。

その後、標準委員会での原案の確認と審議委員会の設置を経て、2017年4月に1回目の審議委員会が開催され、委員会原案が作成されました。また、2017年6月1日～6月30日にパブリックコメントが募集され、審議委員会で集まったコメントに対する対応の審議と規格最終案の作成が行われました。

2017年11月2日に、規格最終案が理事会で承認され、発行に至りました。

規格の内容

本規格の構成は、1章「適用範囲」、2章「引用規格」、3章「用語と定義」、4章「品質管理教育の基本」、5章「品質管理教育の運営のプロセス及び組織体制」、6章「品質管理教育の計画」、7章「研修プログラムの運営」、8章「品質管理教育の評価・改善」、9章「TQM推進段階別・部門別・地域別の品質管理教育」となっています。

4章では、TQMにおける品質管理教育の役割、品質管理教育におけるトップの役割、TQMにおいて求められる人材と能力、階層別分野別教育体系などの基本事項について解説しています。その上で、5章で品質管理教育の運営のプロセス及び組織体制について概括し、6～8章で品質管理教育の計画・実施・評価・改善の各段階での推奨事項を示しています。また、最後の9章では、TQMの導入期・発展期・運用期別の品質管理教育、部門別の品質管理教育、海外拠点における人材育成を取り上げ、補足的な推奨事項を示しています。さらに、付録には代表的な研修のカリキュラム例も示されています。

本規格はTQMを実践している組織やTQMの評価・診断を行っている組織に活用いただくことを想定していますが、あらゆる組織に適用可能です。ISO 9001をベースに品質マネジメントシステムを構築・運営しているものの、システムの有効性やパフォーマンスに物足りなさを感じている場合には、方針管理、日常管理、小集団改善活動、プロセス保証の指針と合わせて、これらを実践できる人材を育成し、必要な組織能力を獲得するために、本規格を活用されることをお勧めします。

規格一覧

http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku_list.html

● 私の提言 ●

支部活動の活性化のために

名古屋工業大学大学院 おもひ領域 川村 大伸



今までの本部、中部支部、関西支部の他に、JAQ設立を睨み、第46年度には東日本支部および西日本支部の設立が決まりました。各地方における更なる学会活動の活性化が期待されます。

筆者は学生時代に中部支部所属として多くのことを学ばせて頂きました。中部支部の事業所見学会では、当時から始まり現在でも続いている「参加者意見交換会」が開催されています。そ

こではグループ毎に参加者が分かれ、見学した内容について議論を交わします。博士課程在籍中には幹事の代わりに急遽グループリーダーを務めたこともあり、今では良い思い出です。また、学会の研究発表会では大学関係者が多数を占めるものだと思いましたが、企業からの参加者が大多数であることに驚かされました。

大学院修了後は関東の大学に就職し、中部支部からはしばらく遠ざかっていましたが、昨年中支部に復帰いたしました。今年2月には中部支部に産学連携研究会が立ち上がり、私は副査を務めています。そこではものづくり企業における生々しい課題に触れ

ることができ、貴重な体験をさせて頂いています。まだ始まったばかりですが、企業の課題解決、および大学が保有するシーズの実用性評価という方向性で順調に進んでいます。

以上のように、ものづくりが活発な地域柄もあり、昔から中部支部は現場に即したものづくりに関する研究や議論を行うには適した場所です。中部支部の研究発表会を見てみますと、第114回の研究発表会では参加者が84名ということで、私が知っている他学会と比べてみても支部活動としては大変成功していると思います。しかしながら、学会員の多くは本部に所属していることから、本部からの参加者がもう少し増えても良いのかなと思っている次第です。特に品質管理に関する大学の研究者は関東に集中しているため、支部の研究発表会に参加して頂けると支部活動の活性化に対して大きな貢献になると考えています。

支部の研究会 〈関西〉

実用的統計手法研究会

事業経営に活用できる実用的統計手法のあり方を考える

主査 清水 貴宏 (パナソニック株)

実用的統計手法研究会は、2008年に大阪大学で教鞭をとっていた黒木学（現横浜国立大学）が『大学と企業の共同活動を活発に行って関西での研究活動を活性化したい』という思いから立ち上げた『統計的品質情報技術開発研究会』が前身である。2010年10月から稲葉太一（神戸大学）が主査を担当し、2016年10月から名称を現在の実用的統計手法研究会と改め、清水が主査を担当している。現在は、大学3名・企業5名の8名で活動している。

統計的方法論は、数理としての学術的意義があることは勿論のこと、昨今のビックデータ・IoTなど企業経営にとって有効な情報の分析・活用に統計的方法論は不可欠であることは言うまでもない。そこで、本研究会は、設立当初から以下の3点を主眼に活動している。

- (1) 実務に活用できる新たな統計的方法論の研究・提案
 - (2) 統計的方法論の誤用の解明と防止
 - (3) 品質管理教育教材の研究・提案
- また、活動のすそ野を広げるために、学会員の同僚・大

学関係者の生徒などのオブザーバー参加を認め、活動の活性化も図った。

今年度は、次の3つの研究テーマについて議論を行ってきた。いずれも、実務上の課題から研究テーマとして取り上げたものである。

研究テーマ1：平面構造物の特性を表す $|z|$ の分布について（稲葉、神戸大学）

研究テーマ2：誤差列がない直交表実験におけるプーリング方法について（濱口、株ムラタアクティブパートナー）

研究テーマ3：平面構造ならびに立体構造部品等の傾向管理について（清水、パナソニック株）

本研究会は、研究内容を積極的に開示しており、上記3つの内容は、2017年9月開催の第115回研究発表会（関西支部）で発表を行った。すでに継続・新規の研究課題が挙がってきており今後も積極的に活動し、研究内容を発信していきたい。

一般社団法人 日本品質管理学会 第47年度事業計画

行事	月	H29 10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会			第47周年次大会 25日(土) 統計数理研究所						26日(土) 臨時総会						第48周年次大会 16日(土)～17日(日) 関西大学
研究発表会	本 部								第116回 26日(土)						
	中 部										第117回 中部				
	関 西											第118回 関西			
講演会	本部・中部・ 関西・西日本							第129回 本部	第132回 関西		第133回 中部	第134回 西日本			
講習会	標準委員会	JSQC規格 日常管理の指針 講習会 24日(火)						JSQC規格 品質管理教育 の指針講習会 15日(木)	JSQC規格 方針管理の 指針講習会						
シンポジウム	本部・東日本・ 中部・関西						第162回 本部			第163回 中部	第164回 関西	第165回 東日本	第166回 本部		
クオリティトーク	東 日 本					○		○		○		○		○	
事業所見学会	東 日 本					第399回			第401回		第403回				
	中 部					14日(水) 第400回					第404回				
	関 西				第398回 31日(水) 川村義肢株					第402回					○
QCサロン(関西)					5日(月)			19日(木)		12日(火)		23日(木)		23日(火)	
その他の行事			安心・安全 ワークショップ 24日(日)										ANQ2018 カザフスタン アルマティ 19日～20日		
会 合	月	H29 10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
理 事 会			438回 2日(木) 439回 25日(土)	440回 11日(月)	441回 29日(月)		442回 19日(月)		443回 24日(木)		444回 19日(木)		445回 14日(金)		446回 2日(金)
庶務委員会		26日(木)		4日(月)	22日(月)		9日(金)								
学術委員会	論文誌編集委員会	19日(木)	30日(木)	18日(月)	26日(金)	23日(金)	16日(金)	26日(木)	17日(木)	28日(木)	26日(木)		6日(木)	18日(木)	8日(木)

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

行事案内

●第18回「安全・安心のための管理技術 と社会環境」ワークショップ

日 時：2017年12月24日(日)13:00～17:30

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

定 員：200名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込締切：12月18日(月)17:00

プログラム：

「安全文化とマネジメントシステム、

リスクマネジメントの連携」

倉田 聡氏

(原子力安全推進協会)

「医療分野における安全文化の測定と
醸成の取り組み」

種田憲一郎氏

(国立保健医療科学院)

「建設業におけるTQMの実践と全員
参加の実現」

小原好一氏 (前田建設工業)

パネルディスカッション

コーディネータ：

中條武志氏 (中央大学)

詳細・申込：[http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h291224](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h291224)

●第398回事業所見学会(関西)

テーマ：川村義肢(株)における義肢・装具
の製作工程と改善活動の取組み

日 時：2018年1月31日(水)12:30～15:05

見学先：川村義肢(株) 大東本社

定 員：30名

申込先：関西支部事務局

詳 細：[http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h300131](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300131)

●第115回QCサロン(関西)

テーマ：経営成果創出に繋がる統計的
方法論の活用と課題

ゲスト：清水貴宏氏 (パナソニック)

日 時：2018年2月5日(月)19:00～20:30

会 場：新藤田ビル11階1102

参加費：1,000円 (含軽食・当日払い)

申込先：関西支部事務局

詳 細：[http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h300205](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300205)

事務局からのお知らせ

第47年度研究助成募集要項

趣 旨：21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

助成金額：1件5万円 4件以内

期 間：1年間(第47年度：平成29年10月から平成30年9月)

募集期間：平成29年12月～平成30年3月末日

詳 細：<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html>

●JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会（本部）

テーマ：TQMの実践に必要な人材を育てる
日 時：2018年3月15日(木)13:00～17:00
会 場：日本科学技術連盟新宿本部
小田急第一生命ビル4階Room A
定 員：80名

プログラム：

1. JSQC規格「品質管理教育の指針」制定のねらい
2. 品質管理教育の基本（4章、5章）
3. 品質管理教育の計画（6章）
4. 研修プログラムの運営（7章）
5. 品質管理教育の評価・改善（8章）
6. TQM推進段階別・部門別・地域別の品質管理教育（9章、付録）
7. 全体討論（質疑応答）

参加費：会 員 4,320円（締切後4,860円）
非会員6,480円（締切後7,020円）
準会員2,700円一般学生3,780円
※当日払いは別金額

申込締切：2018年3月8日(木)

詳細申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300315>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
日本科学技術連盟 東高円寺ビル内
TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail：apply@jsqc.org

事務局からのお知らせ

JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします

JSQC規格 Std 41-001 「品質管理教育の指針」

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、住所、送付方法、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申 込 先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資 料 代：1冊（A4判41頁）会員1,600円、非会員2,000円（税・送料別）

詳 細：http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku_list.html

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。

事務局携帯：090-9128-7979
関西支部：530-0004大阪市北区堂島2-4-27
日本科学技術連盟 大阪事務所内
TEL 06-6341-4627
FAX 06-6341-4615
E-mail：kansai@jsqc.org

2017年9月の入会者紹介

2017年9月25日の理事会において、下記の通り正会員11名、準会員1名、職域会員1名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

.....
（正会員11名） ○衣川 潔（日立ソリューションズ）○日野 知明（日立オートモティブシステムズ）○伊藤良太（伊藤コンサルティング）○白山岬（日産自動車）○堤 俊昭（富士電機）○山本 洋一（YCSプロジェクト）○北川 泰弘（関西電力）○大芦 誠・矢倉 義昭・西村 桂（日本規格協会）○新見 智広（オフィスアンテレ薬剤師行政書士事務所）

.....
（準会員1名） ○川名 純平（群馬大学）

.....
（職域会員1名） ○藤 茂記（アイシン化工）

.....
（賛助会員1社1口） ○三菱ケミカル

.....
正 会 員：1909名

準 会 員：59名

職域会員：45名

賛助会員：146社192口

公共会員：17口

第47年度役員体制決まる

会 長	小原 好一	前田建設工業
副会長	浅羽登志也	ITイノベーションインスティテュート
”	棟近 雅彦	早稲田大学
理 事	新木 純	積水化学工業
”	安藤 之裕	技術士
”	伊藤 誠	筑波大学
”	小野寺将人	日本科学技術連盟
”	金子 雅明	東海大学
”	亀田 毅	G Sユアサ
”	黒木 学	横浜国立大学
”	斉藤 忠	岡谷電機産業
”	佐野 雅隆	千葉工業大学
”	末岡 徹	地圏環境テクノロジー
”	鈴木 知道	東京理科大学
”	椿 広計	統計センター
”	水流 聡子	東京大学
”	長坂 康史	広島工業大学
”	新倉 健一	前田建設工業
”	仁科 健	名古屋工業大学
”	古谷 健夫	トヨタ自動車
”	松浦 峻	慶應義塾大学
”	森田 浩	大阪大学
”	山田 秀	慶應義塾大学
”	吉川 勝也	日本規格協会
”	綿民 誠	ジェイテクト
監 事	住本 守	元 ソニー
”	田中 健次	電気通信大学
”	光藤 義郎	文化学園大学
顧 問	大久保尚武	積水化学工業
”	中條 武志	中央大学

第47年度役員役割分担表

総合企画	○小原 ○浅羽 ○棟近
JAQ設立準備	○小原 ○椿 新木
庶務	○新倉
選挙管理、庶務	○新倉 金子
会員サービス	○佐野
規定	○吉川
会計	○小野寺
品質管理推進功労賞	○椿 ○小原 ○水流
公益化特別	○新倉 末岡 山田
活動	○棟近
事業・広報	○斉藤 ○鈴木(知)
研究開発	○山田
学会誌編集	○伊藤
JSQC選書特別	○飯塚(悦)
QC相談室特別	○森田
東日本支部	○小原 ○浅羽
中部支部	○佐々木 ○古谷
関西支部	○亀田 ○猪原
西日本支部	○長坂
生産革新部会	○浅羽 ○伊藤
サービスエクセレンス部会	○水流
医療の質・安全部会	○棟近
ソフトウェア部会	○兼子
管理技術部会	○福丸 ○金子
標準	○安藤
学術	○黒木
論文誌編集	○黒木
Total Quality Science 編集	○山田 ○松浦
最優秀論文賞/研究奨励賞	○棟近 ○黒木
品質技術賞	○浅羽 ○伊藤
研究助成特別	○仁科
学会間交流	○棟近 佐野 松浦
FMES・横幹	○棟近 ○椿、末岡
国際（ANQ）	○水流 山田
安全・安心社会技術連携特別	○伊藤 ○中條
TQE特別委員会	○鈴木(和)

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、幹事長、副部会長